研究課題名	悪性リンパ腫に対する、低用量ラニムスチンを用いた MEAM 療法を前処置とする自家造血幹細胞移植の有効性と安全性に関する後方視的検討
研究の意義・目的	本研究は、悪性リンパ腫に対して実施される自家造血幹細胞移植（自家移植）の前処置として使用される抗がん剤の投与量を検討することを目的としています。自家移植に先立って実施される前処置では、残存する腫瘍細胞をせん滅するために強力な抗がん剤治療が行われますが、その反面、副作用もあり、身体への負担が大きくなります。前処置で用いる抗がん剤の用量は確立されておりませんが、当院では、ラニムスチンという抗がん剤をやや少ない量で使用する前処置を行っており、本研究ではその治療効果（有効性）および副作用の頻度や程度（安全性）を、過去の診療記録を用いて評価します。 本研究により、低用量ラニムスチンを用いた前処置の有効性・安全性が示唆されれば、身体への負担をより軽減した移植治療につながり、特に高齢や臓器機能に不安のある患者さまにも治療の選択肢が広がることが期待されます。 なお、本研究は大阪公立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学教室を中心とし、複数の医療機関・研究機関が共同で行う多機関共同研究として実施致します。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～　2030 年 5 月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2010 年 3 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の間に、悪性リンパ腫に対して、大阪公立大学医学部附属病院・大阪市立総合医療センターで MEAM を前処置とした自家移植を受けられた 18 歳以上の患者さまが対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ● 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、Performance Status（日常生活の制限の程度） ● 診療情報：病型、発症日(または診断日)、再発・難治と診断した日、前処置開始日、移植日、生着日、病期、予後指標インデックス(international prognostic index)、既往歴、併存疾患名、治療歴（化学療法、放射線療法など）、前処置レジメン、支持療法 ● 血液検査結果：血算(WBC、Hb、Plt)、生化学(BUN、Cr、CRP、AST、ALT、Bil、LDH、Ca、TP、Alb、β2-MG、IgG/A/M)、可溶性 IL-2 レセプター ● 骨髄検査結果 ● 病理検査結果（細胞診、組織診） ● 画像検査結果：胸部Ｘ線、CT、MRI、PET/CT、超音波検査、内視鏡検査 ● 転帰情報：治療効果、病勢進行/再発日、最終経過観察日、治療中止理由、死因、有害事象、晩期合併症
試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名(提供元について)	機関名：公立大学法人大阪 大阪公立大学 機関の長の氏名：理事長　福島伸一
提供する試料・情報の取得の方法	診療の過程で得られた診療情報（「協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目」を参照） 情報の提供方法：パスワードを設定したデータファイルを電子メールで送付

提供する試料・情報を用いる研究に係る研究責任者	研究代表者：大阪公立大学大学院医学研究科　血液腫瘍制御学 氏名：中前　博久
試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	当院および以下の共同研究機関からご提供いただいた情報を本研究に利用致します。 【研究代表者】 公立大学法人大阪　大阪公立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学 中前 博久 【共同研究機関・研究責任者】 大阪市立総合医療センター血液内科 吉田 全宏
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科　血液腫瘍制御学 担当者氏名：八木　尚子 / 中前　博久 電話番号：(06) 6645-3881